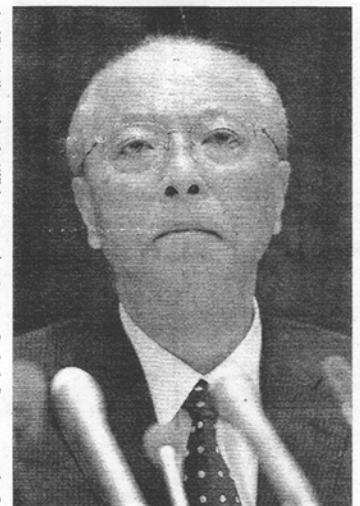


朝日新聞の木村社長は、引責辞任で大誤報の幕引きを狙うのか



慰安婦問題を徹底追及してきた拓殖大学の藤岡信勝客員教授は「朝日は『サンゴ事件』（1989年）でも、社長が引責辞任しているが、慰安婦問題の大誤報による被害はこれの比較にならない。吉田清治氏の虚偽証言を32年間も放置し、これに連なる記事を書き続けた

者委員会などで議論している最中なのに、なぜ先に退任を決めるのか。答申を受けて、道筋をつけながらではないのか。前で発言し、行動したのだから」と語った。

朝日は現在、慰安婦問題の大誤報や、東京電力福島第1原発事故の「吉田調書」をめぐる誤報に關し、社外の有識者を入れた複数の委員会を設置し、年内をメドに検証作業を進めている。

「信念がない」

朝日新聞研究

酒井信彦

■3■

さかい・のぶひこ 元東京大学教授。1943年、神奈川県生まれ。70年に勤務し、「大日本史料」（11編・10編）の編纂に従事する一方、アジアの民族問題などを中心に研究する。2006年3月、定年退職。現在、夕刊紙や月刊誌で記事やコラムを執筆する。著書に「虐日偽善に狂う朝日新聞（日新報道）など」。

しかし、同書刊行から6年たつが、私が見ることころ、その後の検証は行われていないようだ。

実は、取材班トップである外岡秀俊ゼネラルエディターは、刊本の「はじめて」に、こう記している。

「この試みは最初で、最後は、『語りつぐ戦争』という

特集回がある。現在は毎月第

3火曜日

戦争体験の投書である。10月

21日の投稿者は5人で、その

年齢は94歳、91歳、86歳、85歳、72歳である。

今は長寿社会であるから、

朝日関係者でも、長命な人は

いくらでもいるんだろう。元朝

だまだ、戦争中の朝日の実情

を知っている人はいる。

さしあたり、この「語りつ

ぐ戦争」欄で、朝日特集をや

つてみるべきではないか。戦

争の報道ぶり、戦地での朝日

の活躍、国内での販売店の活

動など、読者の体験を募集す

べきである。朝日関係者も、この場でどんどん発言すればいい。

日々の投書欄である「声」欄に

「語りつぐ戦争」という

言い訳のような記述は、明

らかに現実と違っている。朝

日の投書欄である「声」欄に

「語りつぐ戦争」という

特集回がある。現在は毎月第

3火曜日

戦争体験の投書である。10月

21日の投稿者は5人で、その

年齢は94歳、91歳、86歳、85歳、72歳である。

今は長寿社会であるから、

朝日関係者でも、長命な人は

いくらでもいるんだろう。元朝

だまだ、戦争中の朝日の実情

を知っている人はいる。

さしあたり、この「語りつ

ぐ戦争」欄で、朝日特集をや

つてみるべきではないか。戦

争の報道ぶり、戦地での朝日

の活躍、国内での販売店の活

動など、読者の体験を募集す

べきである。朝日関係者も、

この場でどんどん発言すれば

いい。

戦争報道の自己検証すべし

井上氏のコメントの末尾に

は、

「新聞と戦争について戦

後いろいろな記事が書かれた

が、今回の連載「新聞と戦

争」は出色のできばえだ。過

去の自らの活動を、驚くほど

厳しく自己点検している。(中

略)引き続き勇気をもるつて、

自ら点検を続けてほしい」(5

62ペ)

と、自己検証の継続を

求めている。巻末の「あとが

きに代えて」でも、記者が

「すべての課題を検証し終え

たとは思っていない」(57

66)と明記している。



神風特攻隊の出発を伝える朝日新聞の記事

ないオバマ

惨敗後、記者会見を開いたオバマ大統領（5日）もホワイトハウス（ロイター）

を示し、政権と議会の対立が激化する可能性にも言及。「今後、議会の一

から一掃した。エボラ出血熱や過激派「イスラム国」への対応など課題が山積するなか、オバマ氏は「 Cheney ジ」できるのか。

「朝日は廃刊すべきだ」と語っている。多くの国民が「朝日は戦後の自虐史観にも大いに関わっている。多くの国民が

「朝日は戦後の自虐史観にも大いに関わっている。多くの国民が

「朝日は戦後の自

虐史観にも大いに関わっている。多くの国民が

「朝日は戦後の自

虐史観にも大いに関わっている。多くの国民が</p